No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
1	計画策定の背景	2030年のありたい姿を考える際のいわゆる将来都市像を考えるにあたり、市民の生活スタイル等は10年間で相当変化する。将来を的確に見据えた上で計画を策定する必要がある。単なるフィーリングではなく統計情報なども十分に加味し、バックキャスティング方式を効果的に用いて将来計画を考えていく必要がある。	将来像を「豊かさ」と「しあわせ」を感じる共創のまち 須坂とした上で、市民総合意識調査や各種統計分析による強みや弱みの考察を行い、将来シナリオと市が目指すべき姿を描きながら将来像からのバックキャスティングにより計画策定を進めました。
2	計画策定の背景	果樹振興にも影響がある環境問題や温暖化などについてもきちんと考えていく必要がある。	施策27における「施策の取組方針」や「共創のまちづくりに向けた各主体の役割」で記載しました。
3	計画策定の背景	高齢化の問題も深刻ではあるが、大都会は地方よりもさらに高齢化問題が深刻。都会と比べると須坂市については高齢化を嘆く段階にはまだない。須坂市をはじめ、健康意識がしっかり定着した地域は元気な高齢者も多い。いい食べ物や水といった良質な生活環境の影響もある。そうした地域特性も十分加味し、アピールできるような計画策定を進めることが重要。	計画策定の背景データとしては悲観的な課題を並べるのではなく、須坂市が持つ多くの有形・無形の資産に注目し、今後大きな変化が予想される世の中にあっても「強み」となりうる特徴を例示しながら計画を進めるにあたり地域の魅力を市民が感じ取れるような記載方法を行いました。
4	計画策定の背景	将来、高齢者が80歳くらいまで働くようになる時代が来るだろう。予定されているインター周辺開発で大きな雇用が生まれるとなると市の将来想定も大きく変わってくる。将来夢の持てる須坂市を一緒に考えていけるとよい。	庁内策定ワーキンググループの検討結果等も踏まえ、市の将来シナリオ想定を十分に行った上で計画策定を行ってきました。
5	計画策定の背景	健康な高齢者が多い須坂市は高齢者が労働力として活躍することで労働人口の減少が防げる。	施策１、施策４、施策31で多様な主体の社会参画や柔軟な働き方の推進等について記載しました。
6	計画策定の背景	高齢人口のとらえ方や生産年齢人口の考え方についても今後計画策定を進める上で十分議論をしてまいりたい。雇用、産業、交通への影響などインター周辺開発の影響についても十分組み入れた計画にしていくべき。	人口ビジョンについては、総合計画に統合予定の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定めるにあたり将来の人口予測と目標人口の推計を十分に行いました。後段については、市の将来シナリオ想定を十分に行った上で計画策定を行ってきました。
7	計画策定の背景	「人生100年時代」と言われるように、高齢者活用という視点も大変重要。高齢者活躍が進めば消費活性化が進み、地域経済も潤うことになる。そうした意味で地域の企業協力も大切ではないか。	施策31で柔軟な働き方の推進等について記載しました。企業協力については「共創のまちづくりに向けた各主体の役割」において企業に求める役割として記載しました。
8	計画策定の背景	観光や産業という点では「短期的移民」としての外国人の受入れも一つの重要な視点である。観光という点も人口減少に打ち克つための一つの要素。観光を中心に須坂の魅力を外部に発信していくことも、今後の移住施策や人口減少対策には重要ではないか。	施策33で具体的内容を記載しました。
9	計画策定の背景	うまくいった他の地域を真似するという考えではなく、それぞれの地域特性を十分に加味した開発やまちづくりが必要ではないかと思う。地方創生の時代にシフトする中、地域に住んでいる皆さんが自分達の努力でどうまちを良くしていくか考えることは重要。	行政が一方的に進めるまちづくりではなく、市民・企業・活動団体・行政の４者がコラボレーションし各々の役割と責任を全うすることが市の持続的発展につながります。本計画では各施策にそれぞれの役割を明示し策定しました。
10	計画策定の背景	日本全体の人口が縮む中、須坂市は人口を増やす政策でいくのか、無理して増やさず減っていく中でも素晴らしいまちづくりを進めていくのかビジョンとして検討していく必要はある。	将来的な人口減少は避けられないが、特色ある移住支援や須坂長野東IC周辺開発等による社会増など、積極的な政策誘導目標人口を含んだ将来人口ビジョンを策定しました。人口は減っても地域の活力を落とさず、「豊かさ」と「しあわせ」を感じることができる地域となることを期待します。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
11	計画策定の背景	AIとIoTの分野では、今後10年後はかなりAIが進み、すでに現在の生活様式と社会的構造を変化させる兆候が出ている。これらを総合計画の中にどう織り込んでいくのが良いのか。	計画全体では３つのチャレンジ指針の一つとして「進化」を掲げ、新技術の活用を計画全体の方針として策定しています。各基本目標や施策についても、この方針に沿って記載をしています。
12	計画策定の背景	須坂市では現在シャインマスカットを中心にぶどうの人気が高まっており、新規就農者も多く、人口増のひとつとして施策のひとつに加えても良いのではないかと考える。	施策28、施策38など関係施策が相互に一層連携した取組みが必要と考えます。
13	計画策定の背景	人口減については、2060年にかけて自然減となってしまう点はやむを得ない。今後、高齢者が増えていく中では、施設へのアクセシビリティが重要になってくる。今後10年、15年を見据えてその点を考えていかなければならない。ただし、健康長寿の取り組みには費用がかさむ。財政運営を行う中で予算の配分バランスをよく考える必要がある。	計画策定にあたり実施した人口ビジョンを十分に踏まえ、効率的かつ効果的な政策運営・財政運営を進めていく必要があります。具体的内容については施策37に記載しています。
14	計画策定の背景	移住者は増えているが、出生率が上がっていないことは問題である。原因は明確で、若い世代が結婚して子供を育てるだけの収入が得られないということ。若い世代が子育てできる収入を得られるためには行政がどう対応していくかを考えれば、自ずと答えは出るのではないか。日本全体の人口が減少しても、須坂市もそうなるとは限らないという意識で取り組むべきである。人口に関する問題はすべての問題の根幹である。	総合戦略の重点戦略の一つである「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に記載の内容を効果的に進めていただくことを期待します。
15	計画策定の背景	第五次の時は「仮のものでない」「取り繕ったものでない」という意味で「ほんもの」という表現がトレンドでもあった。現在は上辺だけを整えた時代から進化し、成熟した時代に変化しつつある。第六次計画では表現にアレンジを加えていってはどうか。質的にも変化している時代の中で、もう少し深く言葉の選び方を追求していったほうが良いと思っている。	第六次計画においては市がもつ有形・無形の資産である「ほんもの」を持つ『誇り』、「すこやかさ」が生み出す『活力』、「つながり」から生まれる『安心』を土台に、市民一人ひとりが切磋琢磨し協力する、すなわち「共創」によりそれぞれの豊かさとしあわせを感じることができるまちを目指すことを将来像として設定しました。
16	計画の策定方針・方法	ICTの分野において須坂市はオープンデータの取組みを積極的に進め、ゼロから県内の牽引役を担える自治体となった。短期間であってもユニークなニーズやシーズを外部に発信していくことで大きな成功になることを実感している。市、企業、地域が一体になった良い取組みを今後考えていけると良い。	計画における３つのチャレンジ指針の「進化」において、ICTをあらゆる施策分野で活用することを記載しています。また、各基本目標や施策においても、チャレンジ指針を十分念頭においた施策展開を進めることを期待します。
17	計画の策定方針・方法	大型商業施設の内容もしかりだが、インパクトを持たせ、市民にとっても夢のあるビジョンやキーワードを盛り込み、手に取って読んでみたい計画が策定できれば良いと考えている。	基本構想において、10年間の将来シナリオや目指すべき市の姿を明確にし、変化の激しい時代においても、計画目標年度である2030年に向かって市民一丸となって前向きなチャレンジができるような計画とし、計画の愛称を「須坂みらいチャレンジ2030」としました。
18	計画の策定方針・方法	総合計画は市民にとって「夢がある」ものでなければならない。この計画の下、皆で頑張ったら安心安全や明るい須坂市になるのだという確信の持てるような計画づくりをしていくべき。	変化の激しい時代においても、計画目標年度である2030年に向かって市民一丸となって前向きなチャレンジができるような計画とし、計画の愛称を「須坂みらいチャレンジ2030」としました。市民の主体的な取組も将来像実現にあたって欠かせないものであることから「共創」を将来像に含め、各施策において各主体の役割も明確化しています。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
19	計画の策定方針・方法	人口減少や厳しい財政状況は当然対処していかねばならない問題だが、タイトな面を全面に出した計画ではなく、市民が皆で頑張る目標となるような、確信を持って施策に取り組めるような計画になることを望んでいる。	厳しい状況は十分に踏まえつつも、「共創」を将来像に掲げ、各施策において各主体の役割も明確化した計画として策定しました。
20	計画の策定方針・方法	市民総合意識調査の結果を見ると、70代、80代以上の方で３分の１強を占めている。総合計画として10年先までの計画を立てるとなると、若い世代の意見も十分に汲んであげないと、市民全員が希望を持った総合計画と言えないのではないか。	若い世代の意見については市内高校生や49歳以下の若者を対象にした追加アンケート調査を行い、意見把握を実施しました。アンケート結果については主に総合戦略の各戦略を進めるにあたっての背景的課題として用いています。
21	計画の策定方針・方法	「須坂JAPAN」について言葉の印象は良いが、７割近くの方が「知らない」という結果が出ている。言葉だけ先行しても、若い層の関心を引くことは難しいのではないか。計画策定にあたっては、できるだけ分かりやすくイメージし易い言葉を用いていったほうが良いと思う。	「須坂JAPAN」は須坂市のソーシャルキャピタル（社会関係資本）の高い地域特性を活かし、新たなネットワークで新たな価値を共創により生み出していく取組みであり、総合戦略をはじめ各施策を進める上での土台として位置付けています。
22	計画の策定方針・方法	地域づくりという点で中学生や高校生をどうやってどう取り込むかが大事な視点になっている。	SNSを通じた情報発信など、まずは若者に情報を届けること、そしてまちづくりに関心をもってもらうことが重要と考えます。
23	計画の策定方針・方法	ICTの利活用を進めると、様々な取り組みが効率化されるということに繋がっていく。若い世代の方はＩＴへの障壁が下がっているが、今後の取り組みの中で、若手世代とそうでない世代との繋がりをどうつくっていくかという点が重要。	施策36で具体的内容を記載しました。後段については、各種講座の充実をはじめ、幅広い世代の方がICT活用に積極的に取組める施策や事業の充実が必要と考えます。
24	計画の策定方針・方法	あまり若い世代の意見が反映されていないため、次回の実施時には子育て世代を中心に実施していただきたい。	若い世代の意見については市内高校生や49歳以下の若者を対象にした追加アンケート調査を行い、意見把握を実施しました。子育てを行う上での課題等についても設問を設け考察を行いました。
25	計画の策定方針・方法	今回の審議会で議論されている内容は、須坂市だけの問題ではなく、日本全体で抱えている問題である。少子高齢化で人口減少が進むと、様々なことが実現できなくなってしまうため、まずは人口を増やす施策を行うということを柱に置く必要性がある。	計画策定にあたり実施した人口ビジョンを十分に踏まえ、人口減少を和らげるための政策を効果的に行う必要があります。総合戦略に掲げる人口目標（2030年 46,800人）を実現するため、総合戦略の重点戦略を効果的に進めていただくことを期待します。
26	計画の策定方針・方法	人生100年という時代になり、70歳まで働く必要性も出てきた。そういった雇用などの問題もあり、自治会で役員を快く引き受けてもらえない方が増えてきている。地域内でひとりかふたりしか乳児を連れてこないような状況だとしても、その方々を集めて横の繋がりを作る手伝いをするなど、今後を担っていく世代の方々に対しての心配りが必要である。アンケートも若い方々を中心として、新しい視点で須坂市の将来を考えていければよいと考えている。	若い世代の意見については市内高校生や49歳以下の若者を対象にした追加アンケート調査を行い、意見把握を実施しました。地域とのつながりへ意識等に関する課題等についても設問を設け考察を行いました。
27	計画の策定方針・方法	こういう街をつくり、こういう街で生活して人生を展開し、幸せな人々の生活というものがうまれるという時代になるということを、共有しながら地域をつくっていくということが大事である。これは構想のポリシーや基礎となる非常に重要な部分である。	基本構想全般にわたって記載しました。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
28	計画の策定方針・方法	SDGsの理念を計画に盛り込むことについて、市民共通で理解に落ちるかどうかが大切。将来像で表現している「しあわせ」の感じ方も個々で様々である。全般的に言えることだが、文字表現だけでなく内容の伴った分かりやすい構想を作っていくことが重要。	SDGsについては基本構想に項目を設け、市の全ての施策を進める上で土台となるものと位置付けています。また、各施策にはSDGsアイコンを紐づけ配置し、各主体がそれを意識して施策を進めることとしています。
29	計画の策定方針・方法	「しあわせ」はすなわち「生きがい」。人は「生きがい」を感じ、かつそれが達成された時に人は「幸せ」を感じる。子育ても地域貢献も、健康で生活することも生きがいの一つ。市民がこの生きがいを共通に認識できることが幸せ実感につながる。ぜひ「生きがい」というコンセプトを基本構想のエッセンスに含めて欲しい。	将来像を検討するにあたり、その感じ方は人それぞれであっても「しあわせ」や「豊かさ」を感じることが「いきがい」につながると考え、原案の将来像設定に至っています。
30	計画の策定方針・方法	「共創」という言葉について、協力することの大切さや切磋琢磨しあいながら発展的に協力するという意図が欲しい。	基本構想の「まちづくりの基本的な視点」に「４者共創によるまちづくり」として記載しています。
31	計画の策定方針・方法	10年後の社会を確実にイメージしながら、それを前提にした将来像を考えたい。将来を見据え行政や市民が何をするか、一人ひとりがどんな生き方をするか、このコンセプトをもっと明確に打ち出していきたい。	基本構想の「まちづくりの基本的な視点」に「４者共創によるまちづくり」として記載するとともに、基本計画の各施策において各主体の役割を明記しました。
32	計画の策定方針・方法	「孤独」は社会から切り離されることを意味し、社会にとっても損失である。孤独を感じている人は病気になりやすいという統計もある。この須坂市が「孤独にさせない優しい社会」、「絆のある社会」でありたいというコンセプトはぜひ構想に含めていただきたい。	基本構想で「つながり」が生み出す「安心」を市の特色として明記するとともに、一層の「絆のある社会」実現に向け、総合戦略や福祉関係施策（施策６など）にこのコンセプトを盛り込みました。
33	計画の策定方針・方法	基本構想や将来像の検討視点として、市民に分かりやすいということは重要。「ほんもの」や「しあわせ」という概念は非常に良いと感じる。外国人が歴史や伝統に興味関心を示すように、自分達が忘れたものに気付かせてくれるという面からの大事なキャッチフレーズと考える。	第五次総合計画で築き上げてきた「ほんもの」を市民の誇りとし、更なる切磋琢磨と協力で「豊かさ」と「しあわせ」を感じるまちを将来像に掲げました。
34	計画の策定方針・方法	市民が求める個々の要望も大切だが、それを一段階超えたもう少し深い所のベースにあるもので須坂の良さを表現するものとして「しあわせ」という言葉は最適ではないかと思う。将来にわたって「活力を生み出す」というような内容が含まれるとよいのではないか。	将来像に掲げる「豊かさ」と「しあわせ」を感じるまちを共創で実現することがまちの活力を生み出す原動力と考えます。市民・企業・活動団体・行政の４者がスクラムを組み、将来像の実現を目指し努力することが必要と考えます。
35	計画の策定方針・方法	将来像案に掲げる「しあわせ」の価値観は人によって様々。日本にいるだけで幸せと感じる人もいる。個人的には須坂市はとても安全安心で幸せなまちだと思う。普通に生活できることが幸せである。	「豊かさ」も「しあわせ」も人により価値観が異なります。一人ひとりにとって「ありたい」目標は異なっていても、それぞれが多様性を生かし切磋琢磨し協力することで「豊かさ」や「しあわせ」の実感を共有することができるまち、須坂市ではそれをかなえることができる、そのようなまちを共創により実現したいということが将来像に込めた思いです。
36	計画の策定方針・方法	将来像では「幸せを実感する」という表現よりも「皆で幸せづくりをする」というようなイメージ捉えたほうが共創というイメージとリンクし一層良いのではないか。	「共創」は切磋琢磨し協力することであり、行動することを意味します。４者がコラボレーションすることも計画の大切なコンセプトとして盛り込んでいます。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
37	計画の策定方針・方法	「共創」とはいうが、市民に浸透していないのはもったいない。また、第五次計画に取り組んできた成果、新たに生じた課題は何だったのか。時代は刻一刻と進んでいる。今後、団塊の世代が一層の高齢化を迎える。そういう意味でコミュニティの考え方も重要だろう。	市がもつ無形資産の一つである「つながりの安心」を土台に、社会変化に対応したコミュニティの在り方を考えていくことは重要な視点です。このことはまちづくりの基本的な視点として設けた「チャレンジ指針」総合戦略の重点戦略４、またこれに関連する基本計画の各施策に盛り込みました。
38	計画の策定方針・方法	遊休農地の解消や国土保全に対する行政の姿勢もしっかり盛り込みたい。	基本構想における「土地利用に関する基本構想」、施策28で考え方や具体的内容を記載しています。
39	計画の策定方針・方法	子供の頃に美味しいと思ったものは、将来も好んで食べるようになる。須坂産の農産物を好む子供が増えるよう、このコンセプトはぜひ盛り込んで行きたい。	農業分野や教育分野の食育などの取組みとも相互に関連を持たせながら施策を進めていく必要があります。
40	計画の策定方針・方法	須坂市は地域の絆という面でおせっかいは多いが、これから先、高齢者や孤独者が更に増加する中、ふらっと寄れる場所や機会の提供、コミュニティが多くあったら豊かな地域が実現できるのではないか。高齢者が増えていく中に地域の子どもたちも巻き込んでいけるといい。子供達の声を聴くと高齢者も元気になれる。福祉を中心にした他分野との協働ということも今後重要になってくると思う。	高齢化は進みますが、経験豊かな高齢者である先進者がいきいきと地域で活躍し、若者世代に知恵や伝統を受け継いでいく市の良さはこれからも継承していく必要があります。基本構想においてもこれらの点を強みとして触れています。このことを土台にしながら施策間の関連性を大切にしながら施策を進めていくことが必要です。
41	計画の策定方針・方法	「絆」の豊かさという視点はぜひ総合計画の中で大切にしてほしい。老若男女の交流が活発になり、元気な高齢者が活躍できること、皆が集える場所やコミュニティを増やすというコンセプトもほしい。これは必ずしもお金のかかるハード整備ということでなくても実現できるだろうと思っている。	「つながり」から生まれる「安心」は市が持つ無形資産の一つでもあり、継承したい視点であることから基本構想に盛り込んでいます。これらを継承しながらさらに時代に合わせて進化させていくことも必要です。
42	計画の策定方針・方法	旭ヶ丘ふれあいプラザで行われている「すこやかふれあい活動」というも高齢者と子供たちの集いが一例。高齢者から昔の遊びを教えてもらうことや、歌を披露しあうなど、相互交流がされている。そういった世代間の相互交流が各地域で多く展開されていくことが大切。	高齢化は進みますが、経験豊かな高齢者である先進者がいきいきと地域で活躍し、若者世代に知恵や伝統を受け継いでいく市の良さはこれからも継承していく必要があります。
43	計画の策定方針・方法	コンパクトにまちがまとまり、互いの顔が近くに見えるのは須坂の良さであり、しっかり強みとして捉えていきたい。また、構想の策定にあたって「若い人の声を聴くこと」や「賑わいの創出（人で賑わう地域づくり）」をぜひ実現してほしいと願っている。	計画策定にあたり若者アンケートを実施し、市の重点プロジェクトとしても位置付ける総合戦略に課題となる背景や取組みの方向性として盛り込みました。
44	計画の策定方針・方法	須坂IC周辺で開発が予定されている商業施設にも大いに期待している。須坂市は比較的、地盤が地震に強い。どの地域からも景色がいい。ここに商業施設の要素が加わればなお良いまちになる。移住者や外部の人に対し、これらの須坂に住まう魅力を多いにアピールできる計画であってほしい。若い人をたくさん呼べるような地域になってほしい。	施策32、施策33等で具体的な内容を記載しています。地盤の良さや景観の良さは市の魅力であるとともに強みです。将来開発が予定される地域と、既存の市街地がうまく融合しながら新たな人の流れが生まれるような施策の展開を希望します。
45	計画の策定方針・方法	市民がはっと気付き、はっと将来をイメージし、皆が明るい未来を描き、そして夢をもてる、そんな構想にしてまいりたい。コンセプトとして「希望の持てる地域」ということを将来構想としてしっかりと盛り込んでいくことは重要な視点である。	将来像は簡潔で誰にでも分かりやすい表現としました。また、基本構想における「須坂の魅力と特徴」では市の特色や強みにスポットを当てた記載としました。市民が市の良さを自ら実感し、共創の役割を担う主体として認識いただくことを望みます。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
46	計画の策定方針・方法	これから10年先を考えると、何といっても人口減少対策は喫緊の課題。須坂の強みを活かすとすれば、就農を目的とした移住支援は効果的であるといえる。就農者に限らず移住施策を中心とした人口増加施策にはしっかり取り組むべきである。	施策28、施策38など関係施策が相互に一層連携した取組みが必要と考えます。
47	計画の策定方針・方法	世界の趨勢を考えた際、10年間の計画としてどんなアプローチが理想か、今までの須坂市の蓄積をどう考えるかも重要。	基本構想内に「2030年への展望～未来に起こりうる変化と目指すシナリオ～」として記載しました。
48	計画の策定方針・方法	SDGsのの視点は大いに市民で共有する計画にしたい。SDGs目標の達成は市民の責務でもある。	本計画を進めるにあたりSDGsの各目標と施策を対応させ、各施策にもSDGsアイコンを明記しました。
49	計画の策定方針・方法	「共創」は単なる助け合いではない。「協力」と「切磋琢磨」による高めあいの共存である。	基本構想の将来像及び将来像に込めた思いに明記しました。
50	計画の策定方針・方法	広域連携の発想ももちろん大切だが、自立した都市であることもまた重要。世の中が流動的でおかしくなったとしても、自立していられる都市が理想。まちが自立していることは市民の自信につながる。それが活力の原点になる。	基本目標６で「活力と賑わいのある自立したまち」を目指すまちの姿に掲げています。この目指す姿に沿って各施策を進めていくことが必要です。
51	計画の策定方針・方法	総合計画の基本構想が「市民の心に入り込む」構想となり、その構想から市民一人ひとりが未来を描けるような構想を考えていきたい。	基本構想の策定にあたり、市民がイメージしやすい表現として策定を行いました。また、これまでの須坂市が築き上げてきた有形・無形の資産をベースにさらに一段階飛躍をしていこうとの意識付けとなる基本構想として策定しました。
52	計画の策定方針・方法	2030年の将来像は高齢者になる我々が考えていいのかという印象がある。時代変化は凄まじい。情報化も急激に進む。とにかく大きな変化がある。想定外な事への備えも必要。	計画策定にあたっては若者を対象にしたアンケート調査も実施し、若い世代の意見も反映した計画策定を行いました。想定外のリスクに対しても、活用できる有形・無形の地域資源を強みに、変化する想定とそれに将来シナリオを基本構想に盛り込み策定しています。
53	計画の策定方針・方法	計画策定にあたり、もう少し若年層の意見を聞いてみてもいいのでは。みんなが共有できる将来像を。	計画策定にあたっては若者を対象にしたアンケート調査も実施し、若い世代の意見も反映した計画策定を行いました。本計画で掲げた将来像は全ての世代が共感し共有できる将来像と考えています。
54	計画の策定方針・方法	協働で物事を進めていくという点から言えば将来像に「須坂」というキーワードはあったほうがいい。	最終的に「このまち（須坂）で将来像を実現していく」という決意を示す意味をこめ、将来像の末尾に「須坂」を付けました。
55	計画の策定方針・方法	構想を考える上で基盤産業に力があるかが大変重要。人口減少問題は確かにあるが、経済不安が理由という面も少なからずある。生産年齢人口減少の問題も勤め先である企業があれば解決すること。課題として挙げられている中心市街地の賑わいや税収の不安定さも結局のところ経済の力がなければ克服できない。すなわち、結局のところ経済的な支えがないと「しあわせ」「いきがい」は実感できない「しあわせ」実現のためにも地域の産業充実が重要。「まちが自立」という観点は重要だろう。	将来像に含まれる「豊かさ」という言葉は精神的な豊かさと経済的な豊かさの両面を意味しています。地域の産業充実によりまちが自立することも将来像の実現にあたり欠かせないものであり、基本目標６で「活力と賑わいのある自立したまち」を目指すまちの姿に掲げ、各施策に取り組むこととしています。
56	計画の策定方針・方法	「孤独を防止する「やさしい」まち」の意味合いはぜひコンセプトとして含めたい。	将来像に掲げる「しあわせ」を感じることができるまちを共創で実現していくことが「やさしい」まちであることの実感につながると考えます。具体的には福祉分野の各施策において地域全体で見守り、寄り添い、支えあうまちを目指して取組みます。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
57	計画の策定方針・方法	市が自立する前提として「産業」は基盤である。生きるすべが充足していることが活力の原点。「活力」という言葉はキーワードではないか。「豊か」、「活力ある生活」などはコンセプトとして含めたい。	将来像に含まれる「豊かさ」には経済的な豊かさの意味も含んでおり、地域の産業充実によりまちが自立することも将来像の実現にあたり欠かせないものであり、基本目標６で「活力と賑わいのある自立したまち」を目指すまちの姿に掲げ、各施策に取り組むこととしています。
58	計画の策定方針・方法	企業も株主至上主義から公益資本主義へとシフトしなければならない社会。企業がESGに貢献し、活躍することは新たなビジネスチャンスであり、そのような企業活動は新たな原動力を生み出し、地域の活力や発展に資するものである。SDGsの視点と併せ、ESGの視点をぜひ盛り込んで構成願いたい。こうした視点を市民で共有することも「共創」を進める上で不可欠である。	基本構想に、産学官金一体で社会課題に取り組む指標となるESGについても記載をし、地域企業がこれらを十分に意識して取組むことが更なる地域の活力創出と持続的な発展につながることを明記しています。
59	計画の策定方針・方法	基本計画を策定する上で、第五次総合計画のように達成度合いが評価できる記載方法（各施策における「めざしていきます！」欄）は第六次総合計画でも継続してください。	第五次総合計画における「めざしていきます！」の項目について、第六次総合計画では成果指標（KPI）を達成するための「プロセス指標」として設け、上位指標を達成するための取組指標として位置付けています。
60	計画の策定方針・方法	「計画の位置付け」において、人生100年時代の前提やウィズコロナやアフターコロナの世界観（困難な疾病や災害は常にやってくることを当然とした社会の在り様）の中で柔軟に対応できる計画としていくことをしっかり盛り込んでいただきたい。	将来変化に対しての想定やそれを受けた将来の目指すべき姿について、基本構想における「2030への展望」で記載しています。
61	計画の策定方針・方法	「少子高齢化の状況」グラフについて、高齢化率が30%を超えたことが悲観的に示されているが、都会ではこの比率はもっと深刻。須坂市はむしろ、経験豊かな高齢者と若者が共存している良いまちだという側面でとらえることもできよう。他市比較なども十分に示し、須坂市が良いまちだと市民に認識してもらう見せ方も工夫願いたい。	基本構想における「須坂の魅力と特徴」において、マイナス面だけではなくプラスの側面からも市民に認識してもらえるよう記載に工夫しました。
62	計画の策定方針・方法	「社会動態」のグラフについて、学校をはじめとする教育環境の充実や自然へのあこがれなど、須坂市の無形資産に魅力を感じた若者世代の転入の成果ではないか。市民が自分達ではもはや気付くことのできなくなっている「かくれた資産」、「見えない資産」を再認識するため、もっと魅力をアピールするような見せ方が必要。	今後、生産年齢人口の減少を食い止めるという点において、また、移住施策を効果的に進める上でも、子育て世代に選ばれるまちであることが重要となります。この点も踏まえ、「須坂の魅力と特徴」に記載しました。
63	計画の策定方針・方法	「市民意識指標」について、須坂市が住みやすいと感じる市民の割合がかなり高いと見ている。他の市民指標も効果的に挿入し、総合計画を見た市民が自分の地域を「もっと豊かに」、「もっと楽しく」、そんな地域にしたいと思える見せ方を工夫願いたい。	基本構想における「須坂の魅力と特徴」において、市の「強み」である部分を多く盛り込み、プラスの側面からも市民に認識してもらえるよう記載に工夫しました。
64	計画の策定方針・方法	SDGs関連の記載については市民や企業の認識を統一するという意味で大変重要。地域で各種団体が活動する際にもSDGsを意識した活動を進めていくことが重要。各団体が役割をもってそれぞれの工夫で様々な取組みを進めていくことが大切と認識している。	第六次総合計画では各施策にSDGsアイコンを紐づけ、SDGsの17ゴールとの対応を明確にし、各施策の主体がそれを十分に意識しながら進めていくこととしています。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
65	須坂市の魅力と特徴	観光地に行くよりも、そこに暮らす人々の日常生活を見るほうが楽しい場合もある。須坂市の場合は散策をしてもらい日常生活を見てもらうことでも十分楽しめる街である。そうした視点も大切にしていきたい。	施策33で具体的内容を記載しました。「まるごと博物館構想」による地域資源の磨き上げの取組みなどが該当すると覆います。
66	須坂市の魅力と特徴	須坂の強みの中で、人々の繋がりや絆の強さというのも重要である。困ったときに助け合うという地域性という視点も盛り込んでもらいたい。	基本目標２「みんなで支えあい健やかに暮らせるまち」における目指すまちの姿や施策６の取組方針にも記載しました。
67	須坂市の魅力と特徴	須坂市は県内でも「農・工・商・観」のバランスが取れたまちである。このまちを維持していくため行政や市民がどう取り組むか、しっかり考えていきたい。	バランス良く各産業が集積していることを基本構想内で市の特色であり「強み」として明記しています。
68	須坂市の魅力と特徴	須坂の各所から見える景色の良さも大きな強み。須坂市は特別な観光地というわけではないが、県境が見え、山が見える、そんな当たり前の強みをうまく生かすことも考えていったらいい。ただ、景観を言葉で打ち出すだけでなく、元々ある良いものを活かすという発想も大切である。	豊かな自然や、歴史や先人が築き上げてきた有形・無形の資産を活かし、さらにその価値を磨き上げることが地方創生の原点です。基本構想においてこれらの視点を「チャレンジ指針」等で盛り込みました。基本計画においてもチャレンジ指針に掲げた「継承」・「進化」・「学びと行動」の３指針に沿って各施策を進めていくことが必要です。
69	須坂市の魅力と特徴	市民意見欄に「市民が自然を誇りに感じている」というエッセンスも入れていくのが良いのではないか。	市民総合意識調査の結果でもこうした事実は読み取ることができ、基本構想内に背景として盛り込みました。
70	須坂市の魅力と特徴	「自然の豊かさ」は市民が忘れがちな視点。自然を感じ幸せを感じるという考え方も大切。	基本構想内の各所に考え方を盛り込んでいます。
71	須坂市の魅力と特徴	交流は「生きがい」や「心の健康」にもつながる。これは都会では実現できず、須坂のまちならではの魅力。	交流すなわち「つながり」は将来像実現のために欠かせないものです。既に資産としてもつ「つながり」の在り方を時代に合わせて変化させていくことも必要です。
72	須坂市の魅力と特徴	「シニアから青年、そして子供が共に集えるまち（つながりあえる社会）」そんな方向性も基本構想では須坂市の特色や強みを捉えた良いキャッチフレーズになり得るのではないか。	既に資産としてもつ「つながり」を継承するとともに、その在り方を時代に合わせて変化させていくことも必要です。
73	須坂市の魅力と特徴	須坂市は地方都市においては珍しくバランスが取れている都市。いうなれば、小粒でピリッとした山椒のような都市である。市の強みを生かしながら持続可能な都市を目指す。	市が有する強みの分析を元に、基本構想内に「2030年への展望～未来に起こりうる変化と目指すシナリオ～」として記載しました。
74	須坂市の魅力と特徴	須坂市は歴史があり、多様な産業が集積するバランスよいまち。皆で共通の方向性を持って取り組むことに結びつけるような構想になれば大きな力になる。	バランス良く各産業が集積していることを基本構想内で市の特色であり「強み」として明記しています。
75	須坂市の魅力と特徴	年寄りがいる安心、子供がいる地域の朗らかさは須坂市の良き部分である。	基本構想における「須坂の魅力と特徴」に記載しています。
76	将来シナリオ	2020年～2030年での地域社会は大きく変わると思います。IT・5Gの普及により人々の生活スタイルと行動が大きく変化すると考えられます。情報通信のインフラ整備とそれぞれの改革が必要になります。外国人の受け入れ等、考慮すべき課題がたくさんあります。SDGs、新型コロナ、災害と共存する社会になるでしょう。	10年間の長期計画である総合計画（基本構想）の策定にあたっては将来予測される変化を十分にとらえ、市が目指す将来の姿を明確にする必要があります。これについては基本構想における「2030への展望」で具体的に示しています。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
77	将来シナリオ	以下の点を踏まえて、展望とシナリオの記載が必要と思います。 ・気候温暖化をはじめとする環境問題は市の農業のリンゴやぶどう栽培に大きな影響を及ぼすことが想定される。また、防災は住民の関心事でもある。 ・ 団塊の世代が後期高齢者になる2025問題は、医療・介護・社会保障・支え合い等、今のままでは立ち行かなくなる。	基本構想における「2030への展望～未来に起こりうる変化と目指すシナリオ～」において「社会・人口の変化」及び「産業・経済の変化」で具体的に示しています。
78	将来シナリオ	新型コロナウイルス感染で生活様式がすでに大きく変わりつつあることを踏まえたシナリオを考えないといけないと思っています。	基本構想における「2030への展望～未来に起こりうる変化と目指すシナリオ～」において記載するとともに、まちづくりを進める上での基本的な視点である「チャレンジ指針」においても様々な時代変化への対応として「進化」を掲げており、変化に柔軟に対応しながら施策を展開することを期待します。
79	将来シナリオ	「SDGsが掲げられ、世界が一丸となって2030年までに取り組むことが求められている」とあるが、最近のニュースによると2030年を目指しているが、コロナウイルスの問題で達成が困難との報道がありました。市としてより積極的に取り組んでいかないと達成は難しいと思いました。	SDGsは2030年までに達成すべき目標として掲げられています。当市でも基本構想にSDGsとの対応を意識しながら計画を進めることを宣言するとともに各施策にSDGsアイコンを配置し共創の主体がそれらを意識し施策の目指す姿の実現に向けて取組めるよう計画を策定しています。
80	将来シナリオ	新型コロナウイルスの影響が触れられているが、新たな価値観や生活感の中で、無形資産を多く持つ「須坂」での生活が移住希望者も含め、住む人にとって新たな価値を提供しうるチャンスがひそんでいる。	時代や生活の変化を危機的側面のみから捉えるのではなく、チャンスの面から捉え、変化によりもたらされる新たなニーズに的確に対応していく姿勢が必要です。このことについては基本構想における「2030年への展望」で具体的に記載しています。
81	将来シナリオ	女性や高齢者の活躍が注目される中、須坂市にはそれらの活躍の場やチャンスが多く備わっている。	全員活躍による共創は将来像に掲げる「しあわせ」や「豊かさ」を実現する原点と考えます。基本構想では「2030への展望」及び基本目標１「多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち」で記載しています。関連施策が相互に連動しながら効果的な取組みが行われることを期待します。
82	将来シナリオ	充実した教育をさらに地域全体で高め、守り、市民が関わり続けることは大切。未来を担う子どもたちにとっても、市民が自分達に関心をもってくれていること、まち全体で応援されていることは励みであり、地域愛を形成する上でも大切。そんな視点を盛り込んでいくとなお良い。	基本目標３「子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち」におけるチャレンジ指針及び施策９で記載しています。
83	将来シナリオ	新型コロナウイルスとは今後共存の時代となります。「ウィズコロナ」、「新しい生活様式」、「新しい働き方」が主流になる。これらについて盛り込むべきではないか。	基本構想における「2030への展望」で盛り込んでいます。
84	将来シナリオ	50年に一度、100年に一度と思われる災害が、毎年そして年に何回も発生している。自然災害に対する危機意識を市民一人ひとりが高めることが大切。危機意識とは自分で考え、自分で判断し、自分で行動する力である。	施策15で「自助」の重要性を盛り込み、共創のまちづくりに向けた各主体の役割における市民の役割にも明記しています。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
85	将来シナリオ	コロナウイルスの問題で、（社会全般について）今まで通りの活動ができない状況です。こういった感染症の問題に加えて、水害や地震などに強いまちづくりはとても大事だと思います。こうしたことへの対応としてインターネット環境の整備なども重要だと思います。今後、社会活動を継続するにあたり今までとは違った部分も考えていく必要があると思いました。	将来変化に対しての想定やそれを受けた将来の目指すべき姿について、基本構想における「2030への展望」で記載しています。
86	将来シナリオ	新型コロナウィルスと気候変動について、書面での指摘事項を盛り込んでいただき感謝。2030年は新技術の台頭により雇用にも劇的な変化。仕事の種類や就業のあり方にも大きな変化が見込まれる。産業経済の変化としてこれら変化への対応を盛り込んでいく必要がある。	基本構想における「2030への展望」で盛り込んでいます。
87	将来シナリオ	コロナ禍でDX（デジタルトランスフォーメーション）を中心に社会が回っていく時代。AIやDX、産業構造の変化に対応した対策なども盛り込んでいただきたい。	基本構想における「2030への展望」で盛り込んでいます。
88	将来像	「しあわせ」は誰しもが希求する状態であり、環境や活力は「しあわせ」の前提条件と捉えることが自然と考える。須坂市の資源である「すこやかさ」、「ほんもの」、「つながり」を更にブラッシュアップさせ、市民一人ひとりの「しあわせ」を実現させていくことが将来像を語るうえで相応しいと考えます。	これまでの歴史や先人が築いてきた有形・無形の資産を土台に、それを更に磨き上げ「豊かさ」と「しあわせ」を実現しようというメッセージが本計画の将来像に込めた思いです。
89	将来像	将来像について、感じ方は違えども、「しあわせ」と個々に感じることがあるべき姿、ありたい姿だと考えます。最終的に「しあわせ」と感じることで活力が生まれるものだと思います。	基本構想における「将来像に込めた思い」に記載しています。
90	将来像	「しあわせ」の価値観はそれぞれ個人の感性によるもので、多様性があり、その実現にそれぞれの立場で努力する姿が須坂市の将来像と思います。数字とか物欲での「しあわせ」もありますが、精神面での「しあわせ」も必要と思います。	将来像に含まれる「しあわせ」という言葉は経済的な満足による「しあわせ」はもちろん、精神面での「しあわせ」も内容しています。実現したい「しあわせ」は人それぞれ異なっても、それぞれが多様性を活かし切磋琢磨し協力することでおのずと将来像が実現すると考えます。
91	将来像	「しあわせ」を感じるまち」は、市民の多くの方々を包み込む概念であると判断申し上げます。「しあわせ」を感じるまちであるならば、それはすこぶる良い状況が共創されていると判断できると考えます。	基本構想における「将来像に込めた思い」に記載しています。
92	将来像	今年は思ってもいなかったコロナウイルスの問題や７月の大雨災害などがあり、願いをこめて「活力あふれるまち」になってほしいと選びました。イメージとしては、「しあわせを感じるまち」は個人に対して、「活力あふれるまち」は個人も含めて地域・社会全体の将来像だと受け取りました。須坂市全体を考えると「活力あふれるまち」がいいと思いました。	審議会の中で「活力」「しあわせ」など須坂市の将来像を示す上で重要なキーワードについて検討を深めました。最終的に「活力」という言葉は物質的なものも精神的なものも含む「豊かさ」という大きな意味での概念に内包されることから、原案の将来像を決定するに至っています。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
93	将来像	「しあわせ」は人によって捉え方や感じ方が異なり、短中期的に変化しやすいものであるため、中長期計画のスローガンとしては「活力」のほうがふさわしいと考えます。	「活力」という言葉は物質的なものも精神的なものも含む「豊かさ」という大きな意味での概念に内包されると考えます。「しあわせ」は人それぞれ感じ方が異なっても、それぞれが多様性を活かし切磋琢磨し協力することでおのずと将来像の実現につながり、「活力」や「豊かさ」をも生み出していく原点になると考えます。
94	将来像	「しあわせ」は老若男女全ての人が夢や希望を持ち、日々の生活や生業を健康で送ることができ、叶ったときの達成感だと思います。人それぞれに夢や希望は異なるので、「しあわせ」の感度やイメージが異なるのは当然ですが、モチベーションは多少違っても目指す将来像としては、誰しもがそうありたいと等しく思えるところであり、やさしく理解でき、将来像として適切であると思います。	基本構想の「将来像に込めた思い」に記載しています。
95	将来像	須坂市には素晴らしい自然があり、「ほっと」するふるさとがあると実感して生活してきました。恵まれている豊かな自然を10年後まで伝えることは大切な事だと思っています。また、それぞれの立場で共創しながら築いていける社会をめざすことにより、「個人」の「しあわせ」を築き上げられたらよいと思う。最終的には誰もが「しあわせ」を感じて、住んでよかったと思える市になるとよい。	須坂市の特徴であり強みでもある自然環境については、将来像設定に当たり土台となる「有形・無形の資産」の一つである市民にとっての「ほんものの誇り」であると考えます。これら有形・無形の資産を活かし、将来像を実現していくことが重要と考えます。
96	将来像	新型コロナウイルス発生のため、世の中のシステムや生き方が変化していく現況においては活力あふれる姿は考えられません。この環境が「しあわせ」だなあと感じるところに人々の心が良き方向に向かうと信じています。	基本構想の「将来像に込めた思い」に記載しています。
97	将来像	万一の場合には温かい支援を受けることができるという「安心」があることは、誰一人取り残さないというSDGsの基本理念にも呼応するのではないかと思う。	全ての人が地域の中で孤立し、孤独になることのないよう、地域全体で見守り、寄り添い、支援をしていくことが誰一人取り残さないというSDGsの理念にも沿うものと考えます。具体的な福祉関連施策の中でSDGsにおけるゴールを十分に意識し施策を進めていくことが必要と考えます。
98	将来像	コロナ禍において社会の状況も変容している。そのような中においても、豊かな自然環境に恵まれていることや、若者・高齢者が適度に共存し、やさしく、そしてあたたかな、いわば無形資産である豊かな環境で安心した暮らしができることは他に代えがたいものである。「活力」は共創により生み出されるものであるが、それは市民が無形資産である「豊かさ」と「しあわせ」を相互認識し、さらに切磋琢磨と協力による「共創」でその価値をより高い次元に引き上げていくことがまさに須坂市の将来像ではないか。また、将来像としてはやはり“このまちでそれを実現していく”という市民の共通スローガンであり、意識付けであることから表現の最後にあえて「須坂」とつけるその意義は大きい。	内容については基本構想の「将来像に込めた思い」に記載のとおりです。最終的に「このまち（須坂）で将来像を実現していく」という決意を示す意味をこめ、将来像の末尾に「須坂」を付けました。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
99	将来像	「将来像に込めた願い」について、孤独（孤立）にさせないということに加え、「やさしい」「あたたかな」まちとすることを想いとして加えてはどうか。コロナ禍で人の関係性は希薄になりがち。しかもそれが社会の新動態であり社会の流れとして避けられない将来となるだろう。人恋しさは誰にもある。心でつながり、心で支え合う、そんな温かさが須坂市の目指す姿でもある。	孤独（孤立）にさせないということに加え、「やさしい」「あたたかな」まちであることは人の「しあわせ」実感につながると思います。将来像を実現するにあたり土台となる有形・無形の資産には「つながりの安心」も含んでいます。
100	まちづくりの基本視点	チャレンジ指針の一つである「進化」で述べられている、IoT、ビッグデータ、AIなどの活用について、行政側も積極的な施策を打つ必要があるため、「進化に柔軟に対応」していく姿勢ではなく「積極的に推進」という姿勢が大切。	IoT、ビッグデータ、AIなど新しい技術の活用は今後10年において重要な視点となることからも「積極的に推進」という言葉で記載しました。
101	まちづくりの基本視点	まちづくりの基本方針として、今後人口が減少することは前提におきながら、人口は減っても社会的総力は落とさない、地域の活力は劣化させない、そんな地域を皆で共創していく。それを促すのがチャレンジ指針でいう「学びと行動」である。このコンセプトを盛り込んで構成願いたい。	基本構想における「チャレンジ指針」の説明の中に記載しました。
102	まちづくりの基本視点	各主体の共創について、「市民・企業・活動団体・行政」の４者がスクラムを組んで、強固な須坂市を形成していくイメージで図式化してほしい。	基本構想における「４者共創によるまちづくり」に概念図とともに記載しました。
103	基本目標１（人権・共創・全員活躍）	ジェンダーの均等雇用については、ご承知のようにＳＤＧｓの中で非常に重要なテーマであり、地方の都市と言えども世界が目指す方向性というものはしっかり認識したものを打ち立てる必要がある。	施策１における「男女共同参画」で具体的内容を記載しました。
104	基本目標１（人権・共創・全員活躍）	現在は人権問題の間口が広くなってきており、次から次へと問題が出てきてしまう。人権については人権学習会を年２回実施しているが、参加しているのは役員の方だけというのが現状である。	施策１で具体的内容を記載しました。同施策の「共創のまちづくりに向けた各主体の役割」にも記載しているとおり、人権問題等をいかに「自分ごと」として考え行動することを促すかが今後施策を効果的に進める上で一層重要な視点と考えます。
105	基本目標１（人権・共創・全員活躍）	女性活躍やジェンダー平等を計画に盛り込むことは重要な意義がある。	全ての基本目標や施策を実現するにあたり土台となる考え方であり、冒頭の基本目標１にその内容を盛り込む形で総合計画を構成しました。
106	基本目標１（人権・共創・全員活躍）	女性活躍を強調してほしい。子育てもしながら介護にやさしいまちを視点としていれてほしい。女性をいかすという視点をもっていただきたい。安心や人のつながりは大切。弱い人が置き去りになっている。ひきこもりも大きな問題になっている。「やさしさ」の視点をぜひ含めてほしい。	女性活躍の視点については施策１で男女共同参画の視点から取組内容を記載し、子育て支援や就労支援については施策９及び施策31で取組内容を記載しています。全員活躍による地方創生実現のため、分野横断型の施策展開が重要と考えます。後段については、福祉分野の各施策において地域全体で見守り、寄り添い、支えあうまちを目指して取組みます。
107	基本目標１（人権・共創・全員活躍）	基本構想に限らず全体的に「国際化」の視点はもつべき。外国人への対応という点においても少し視野を広げておきたい。必ずしも基本構想の中ということではなく、個別施策のなかでもいい。何らかの形で表現はされるべき。	国際化や多文化共生の視点については重要であり、施策１における取組方針の中で具体的に記載しています。
108	基本目標１（人権・共創・全員活躍）	誰もがひとしく幸せになる社会を実現するためには、虐待（子供、高齢者）、自殺問題等の観点も含める必要があるのでは。いのちが守られる「安全・安心」という言葉が含まれるといい。何とか言葉として入らないか。	児童虐待の問題については施策９で、自殺に関する対策等については施策２で具体的に記載しています。各施策での取組みにより「しあわせ」を感じることのできるまちが実現していくと考えます。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
109	基本目標２（健康・社会福祉）	地域の医療機関を核とした健康増進の更なる取組みも必要である。	施策２および施策３で具体的内容を記載しました。
110	基本目標２（健康・社会福祉）	信州医療センターには地域の中核医療機関としてしっかり取り組んでいただいている。それが市民の安心につながっている。市民は気付かないかもしれないが、日頃から高いポテンシャルを持った医療体制の中で生活できていることも市民に知ってもらう必要がある。	本計画でも一つの施策として地域医療支援体制の推進（施策３）を設けています。いつでも安心して医療を受けられる地域であることは市の強みだと考えます。
111	基本目標２（健康・社会福祉）	福祉全般を通して暮らしやすい福祉のまちづくりを計画策定の中で一緒に考えていきたい。	基本目標２「みんなで支えあい健やかに暮らせるまち」の各施策において具体的内容を記載しました。
112	基本目標２（健康・社会福祉）	今後10年、15年先は、いかに在宅医療を充実させていくのかが大切なテーマである。	施策３で具体的内容を記載しています。
113	基本目標２（健康・社会福祉）	「孤独を防止するやさしいまち」について、ヨーロッパでは孤独防止にかかる担当大臣がいる。孤立は社会の流れであるが、孤独はつくらないことが重要。孤独は１日20本の喫煙と同じ健康被害があると言われている。孤独を社会から追放るようなまちになるといい。その点、須坂はコミュニティが充実している、これは大きな強みである。	基本構想において「つながりの安心」は須坂市がもつ無形資産として記載しています。時代の変化にあっても、この強み引き続き守り継承していくことが大切と考えます。
114	基本目標３（子育て・教育）	元気な高齢者の街ももちろん良いが、まずは子供を須坂市で産んでもらえる環境を作ることが必要と感じる。子供は何とかすれば女性は産めるし、産みたいと思っている。けれども経済面を中心に、その環境がなかなか整わない。多子世帯が市内に転入する場合の補助など、オリジナリティのある施策の打出しや、一回きりとならない継続した女性向けの施策にも目を向け、女性が勇気を出して「もう一人子供を産むか」と思える環境を考えていくことも必要ではないか。	子育て環境や支援面の充実については施策９、経済面の問題を解消するための取組みについては施策31に記載しました。ハード・ソフト両面からの施策充実が大切と考えます。
115	基本目標３（子育て・教育）	子育て分野について、社会が若者の育成に責任を持つことが大切である。	基本目標３の「３つのチャレンジ」における「継承」欄に明記しています。これまで同様に「地域の子は地域の力で育てる」意識の醸成をはかっていくことが必要です。
116	基本目標３（子育て・教育）	子育て・教育分野の遅れが目立ちます。少なくとも小中学校の生徒にパソコンを無償支給し、オンライン教育での日本一を目指すくらいの意欲が必要です。小学校１年生は10年後に高校１年生になります。人材育成こそが将来の須坂の姿だと思います。	施策10で具体的な内容を記載しました。
117	基本目標４（文化・スポーツ・生涯学習）	大型商業施設関連の政策以外にも、伝統的建造物群保存地区の取組でも大きくまちづくりのあり方が変わってくると考えている。	施策13で具体的内容を記載しました。
118	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	安全・安心のまちづくりも重要なキーワード。人口減少の中で、心のゆとりにつながる真の安全安心とは何かについて考えていくことは大変重要ではないかと思っている。	基本目標５「安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち」の各施策において具体的内容を記載しました。
119	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	想定外の気候変動も、今後は常態化するという危惧があり、災害に強いまちづくりというキーワードも入れていくということを検討してはいかがだろうか。	基本目標５「安全・安心で快適な生活と美しい自然環境がともにあるまち」において、目指すまちの姿に含めて記載しました。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
120	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	少子高齢化の中で、我が家でも父が高齢となり自動車の運転について家庭内で話し合っているが、運転免許の返納についても考える必要がある。須坂市は坂道が多いため、自転車での移動も大変であるが、バスの本数は多くなく、交通網をどう整備していくのか考える必要がある。親子で同居していても仕事の関係などで医療機関への送迎は問題となる。今回の資料には自動運転についても触れており、交通事情についても盛り込んでいただきたい。	施策24で具体的内容を記載しました。公共交通は市による整備はもちろん大切ですが、市民が公共交通に関心をもち積極的に利用することもその維持において大切なことであり、主体の役割にも記載しています。
121	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	最後に、防災対策については今後アンケートを実施するということなので、その結果を踏まえた対策をお願いしたい。	施策15で具体的内容を記載しています。また、災害に強いまちづくりを一層効果的に進めるため、国土強靱化計画も総合計画と一体的に策定しています。
122	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	世間では高齢者は運転しないという風潮があるが、私が住んでいる地域は市民バスの路線からは外れている。仮に免許返納するとなると、子供にお願いするか、タクシーを利用することになり、利便性が損なわれてしまう。同世代の多くの方々が同じテーマを抱えているため、今後はバスの路線や本数を増やすことなども考えていただきたい。	施策24で具体的内容を記載しました。公共交通は市による整備はもちろん大切ですが、市民が公共交通に関心をもち積極的に利用することもその維持において大切なことであり、主体の役割にも記載しています。
123	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	10年後に向けた改善したい点として、道路、歩道の整備という項目が一番高い数値であったが、市外や県外からのお客様が多く来てもらえている中で、道がわからないという問い合わせが非常に多いと感じている。近年はレストラン等の出店も増えて集客も高まっているので、機会損失しないためにも、わかりやすい道路や看板標識等を整備していただきたい。	関連施策や施策に紐づく具体的な事務事業の中で十分検討いただく必要があると考えます。
124	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	登校時や下校時にゾーン30の制限速度を守れていない自動車も多く危険なため、対策を講じていただきたい。	関係機関を含め、対策について検討いただく必要があると考えます。
125	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	安全・安心なまちづくりという点で、インフラ整備、市民モラルの向上などもしっかり提言できるようにしたい。	関連施策や施策に紐づく具体的な事務事業の中で十分検討いただく必要があると考えます。
126	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	今回の災害の教訓からすると「行政と自治組織の連携」は重要である。災害に備えるための行政と自治組織との連携強化、強靭な自治組織づくりという視点はぜひ盛り込んでいくことが望ましい。	基本目標５のチャレンジ指針、施策15に具体的な内容を記載しています。
127	基本目標５（安全・安心・環境・生活基盤）	環境面について言えば、SDGsの視点も大いに踏まえながら「実践できる環境市民」を目指すという面からアプローチしていくことも重要だろう。	環境保全については国際的なテーマでもあり、問題解決にあっては、行政の取組みはもとより個々の意識向上と主体的な取組みが不可欠です。本計画では施策25及び施策27で市民の役割として意識を持った行動や環境に配慮した行動を行うことを明記しています。
128	基本目標６（産業・観光・雇用）	最終的には雇用や産業が重要である。安心して働け、収入が生み出される場所があれば自然と人は集まってくる。そういう意味では産業振興は大変重要ではないかと思っている。	施策30で具体的内容を記載しました。
129	基本目標６（産業・観光・雇用）	須坂市には基盤産業がなく、須坂の弱みのひとつとなっているが、飲食料品小売業、金属製品製造業などのようないい産業もあるので、このあたりを新しいICT絡みの新事業を作り出すような気運が、報告書の構想の中に入っていくべきだと思う。	施策30で具体的内容を記載しました。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
130	基本目標６（産業・観光・雇用）	従来産業も大事だが、新産業も大事。夢のある提案というのも入れてもらいたい。農業分野でも、ぶどうやりんごを生産するだけでなく、ジャムやジュースに加工するなど、農産物を付加価値の高い製品にすることによって地域の経済が潤っていく。りんごをジュースにするのであれば、ジュースの加工業者ができて生産や販売の雇用が生まれる。そんなような提案も入れてもらいたい。	基本目標６「活力と賑わいのある自立したまち」、施策30及び関連施策で具体的内容を記載しました。
131	基本目標６（産業・観光・雇用）	10年後も残したい須坂市の強みや魅力として、おいしい果樹、農産物とあるが、現実には農業従事者は高齢化しており減少している。５年ごとに実施している農林業センサスにおいても、須坂市の農業戸数は2000戸ほどだが、減少の一途をたどっており不安を感じている。今回の台風19号による災害の中で、千曲川のりんご畑を中心に甚大な被害を受け、離農を考えている農家も増えており、さらに農家数が減少すると懸念している。	施策28で具体的内容を記載しています。
132	基本目標６（産業・観光・雇用）	国としては食料自給率40%という目標があるが、現在は38%ほどとなっており、重要になることは地産地消だが、須坂市としてはどのように考えているのか。また、須坂創生高校の生徒が卒業する際に、どれくらいの割合で就農するのかということも、アンケートを実施する中で必要なのではないかと考える。	今回の計画策定にあたり具体的な設問を設けて把握することはできませんでしたが、地域特性を活かし高校を卒業した生徒が就農に強い関心を持つような一層の取組みも必要だと考えます。
133	基本目標６（産業・観光・雇用）	地産地消は非常に重要なコンセプトとなるので、構想の中に入れていきたい。市民が美味しい果物があるということを須坂の強みだと感じているのは、子供のころから美味しい果物を口にしているからである。味覚というものは小学校６年生のころまでに決まる。子供のころの味覚は一生であるので、須坂で育った子供は須坂の果物を美味しいと感じる。美味しい果物を地域でつくり、食べて、広めるということは大事である。	施策28、施策33など関係施策が相互に一層連携した取組みが必要と考えます。市民が自分たちの地域産品に誇りをもち、美味しい農産物を積極的に自らPRすることも大切と考えます。
134	基本目標６（産業・観光・雇用）	子育ての環境づくりも重要な要素である。農家の後継者不足もあり、技術継承という点でも移住者による転入は必要であるが、子育てしながら農業技術を学ぶという体制づくりもお願いしたい。	施策28、施策38など関係施策が相互に一層連携した取組みが必要と考えます。
135	基本目標６（産業・観光・雇用）	農業者の持続可能性は大事である。シャインマスカットなどブドウの生産者は増えているが、リンゴの生産者は増えていない。リンゴにも高価で販売できるような品種はあり、工夫して盛り込んでいければ面白いと考えている。	施策28、施策38など関係施策が相互に一層連携した取組みが必要と考えます。
136	基本目標６（産業・観光・雇用）	地域の基盤づくり、経済力、産業力は重要なポイントである。構想の中にしっかりと盛り込んでいきたい。	施策30で具体的内容を記載しました。
137	基本目標６（産業・観光・雇用）	新規就農者の「定住」や「生活サポート」という点についてもぜひ農業施策での課題として捉えていけると良い。	施策28、施策38など関係施策が相互に一層連携した取組みが必要と考えます。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
138	基本目標６（産業・観光・雇用）	農業分野で使われる「地産地消」と「地消地産」は意味が違う。前者は生産が起点、後者は消費が起点である。後者で表現する自治体は県内でも少ないが、自分達が消費する農産物は地元で作るという観点からも、後者で表現していくのがよいのではないか。	両者の考え方は言葉は異なっても、市の魅力であり「強み」である農産物について消費を通じて守り、そして外に発信していくという視点では共通と考えます。基本目標６の「チャレンジ指針」、施策28における「共創のまちづくりに向けた各主体の役割」でも消費者である市民の役割として明記しています。
139	基本目標６（産業・観光・雇用）	農業の担い手不足が課題として挙げられているが、遊休農地や荒廃地の増加も大きな問題。農業分野にとどまらず、環境問題とも密接に関連するためきちんと考えていきたい視点である。	施策28で具体的内容を記載しています。
140	基本目標６（産業・観光・雇用）	須坂のほんものの果物の味については多くの人が認めるところである。こんないい須坂のブランドを継承していくという点からも農業後継者対策にしっかり取り組むことは重要。	施策28に具体的内容を記載しています。
141	基本目標６（産業・観光・雇用）	果樹栽培について「付加価値の高い産業にする」というコンセプトを含めていくことが重要。付加価値産業への転換という表現は重要。フルーツをドライフルーツにして価値を活かすなども事例の一つだが、付加価値創出という点の重要性を踏まえておきたい。	施策28で具体的な内容を記載しています。
142	基本目標６（産業・観光・雇用）	須坂市の農業は強みでもあるが、同時に弱みでもある。農業従事者の高齢化に伴う生産力低下や農家数の減少など弱い部分もある。このあたりをどう見ていくか。	基本構想の「2030への展望」でも記載しているとおり、高齢化の進行により人材不足が深刻化することが見込まれます。女性や高齢者の潜在的な労働力を掘り起こし、全員活躍により地方創生を進め、課題を解決していくことが必要と考えます。
143	基本目標６（産業・観光・雇用）	須坂市は全国的に知名度が低い。「須坂という場所は一体どこにあるのか」というイメージを持たれており切ない。ぜひとも次期計画ではイメージアップにつながるような取組みを。	施策34で具体的な内容を記載しています。
144	基本目標６（産業・観光・雇用）	基本構想の中に観光というキーワードが入っていない。自然や歴史文化については触れられているが、これも観光につながり得ること、コロナ禍において観光は大打撃を受けている。一方で地元の人が須坂の魅力を再認識する良い機会にもなった。その中で基本構想に観光というキーワードが含まれていないのは残念。若い人からは、須坂の場合に観光は必要ないという意見もあるかもしれないが、須坂の良さを発信するものとして、大切にしていかねばならない。県外からの観光による消費という面に限らず、地元の人が須坂の魅力に触れ、良さを発信することも含め、ぜひ観光の項目や要素を構想内に盛り込んでいただきたい。	基本目標６における「目指すまちの姿」に観光を加え、農林業、商工業・観光業・サービス業との連携を図りながら施策を展開することを望みます。
145	基本目標６（産業・観光・雇用）	「まるごと博物館構想」なども活用した生活密着型の観光も重要であり、須坂の一つのアピールポイント。コロナ禍で自分の住む地域を自分たちが見直す良い契機にもなっている。そのような視点を盛り込んでいきたい。	施策33では「まるごと博物館構想」の事業実施について記載するとともに、「共創のまちづくりに向けた各主体の役割」において、自身の住むまちに誇りをもち、まちづくり活動に取り組むことを明記しています。
146	基本目標７（行財政・共創・移住定住・結婚支援）	「相手があって結婚できる」ことの幸せ実感は大切。出会いの縁もない若者は多い。しっかり施策に含めていくことが大切。	総合戦略の「重点戦略３」、基本計画における施策38に記載しました。

No	項目分類	審議委員意見	原案への反映内容・答申にあたっての審議会の考え
147	基本目標７（行財政・共創・移住定住・結婚支援）	出会いの縁を創出するために、いわゆる“世話焼きさん”と言われるような地域の絆も必要。この点では、須坂市に昔からある「地域の温かみ」も基本構想のコンセプトに含めていけたらいい。	基本構想で「つながり」が生み出す「安心」を市の特色として明記しています。こうした市の特色である「つながり」を生かし、施策38において若者の結婚支援に取組むことが必要です。
148	基本目標７（行財政・共創・移住定住・結婚支援）	国全体の成長が期待できない中、どこの自治体も「頭は使っても金を使わない」という発想は大切。市民も行政に過度に期待しすぎてはいけない。スピード感もある民間を積極的に活用する仕組みをぜひ盛り込んでほしい。民間活用によるコスト削減は今後行政が力を入れて取り組むべき分野の一つである。インター周辺開発も上手な民間活用の例。特区活用なども含め大いに取り組んでいただきたい。	民間を含めた市民・企業・活動団体・行政の４者共創をまちづくりの基本視点とし、各施策において主体の役割を明確にした計画としました。効率的かつ効果的な行政運営という点でも民間活用は重要な視点と考えます。
149	基本目標７（行財政・共創・移住定住・結婚支援）	行政コストの削減、スリム化は一つの大切なコンセプト。基本構想を考える上での方向性として持っておきたい視点。	施策36及び施策37で具体的な内容を記載しています。